

私は串木野人

羽島青年学級のみなさん

1865年、鎖国の禁を破り薩摩藩の欧州留学生として旅立つ19人の若き志士たちを見送った、串木野・羽島の港。この羽島地区でまちおこしに取り組む「羽島青年学級」は、かつての薩摩藩の郷中教育の流れをくむ青年団を母体として昭和44年に結成された地域の活性化グループ。地方の過疎化や核家族化の影響もあり青年団等の活動は全国的に衰退の一途をたどっている。また元氣なお年寄りが増えたが、昔に比べ若者たちの元氣がなくなった、などという声も聞かれる中「羽島青年学級」では、現在、21歳から40歳まで16名の若者たちが知恵と情熱を持ち寄り様々な活動に取り組んでいる。

「先輩方がそうしてきたように、地域の文化や歴史を守っていくことも、この地区で生きる若者たちの役割。」毎年8月に青年学級の主催で開催される「納涼盆踊り」は、広場の中心に矢倉を組みその周りを練り踊る昔ながらの輪踊りスタイル盆踊りである。また昭和55年より毎年開催されている「羽島青年文化祭」は、世代を超えた地域のふれあいの機会として、幼児や小中学生、婦人会や高齢者の人たちが参加する地域の一大イベントとして成長した。昨年よりスタートした「羽島にサンタがやってきた」は、保護者より預かったプレゼントをサンタに扮した青年学級のメンバーが各家庭に配るというユニークな企画、大好評を博したという。

「自分たちの活動、頑張っている姿を子供たちに見せることで、青年学級を次の世代に残してゆきたい。」学校行事や地域イベントへの参加、各種ボランティアなど、仕事やプライベートと両立させながら青年学級生の活動は続いてゆく。

